

中高生向け薬害に関する公開講座 指導計画

平成 24 年 3 月

作成：甲府市薬剤師会 生涯学習委員会

1. 題材設定の理由

目標：薬害にはどのようなことがあったのか、どうして起きたのか、防ぐために私たちはどうしていけばよいのかについて考える。

現在の中高生にとり薬は簡単に入手できる環境である。その中で薬の正しい使い方、薬のリスクについて知る機会はあるが、「薬害」について学ぶ機会はあまりない。今回「薬害」について正しく理解し、被害者の方の話を聴き、対話する経験の中で、過去の問題としてではなく、将来のための学習となるよう考え設定した。

2. 指導のねらい

- ・ 代表的な薬害について話を聞き、どのようなものだったか確認する。
- ・ 薬害発生についてどのような共通点があるのか考え、グループで討議する。
- ・ 被害者は、どのようなことに苦しんできたのかを聴き、考える。
- ・ 被害者は薬害をどのように考えているのか対話し、まとめる。
- ・ 薬害被害により、どのような制度ができたのかを知る。
- ・ 関係者にはそれぞれどのような役割があるのか考え、討議する。
- ・ 私たちができることはなにか、討議しまとめる。
- ・ 自分の知らなかったことを知り、自分の考えたことを発言し、初対面の友達とも討議できる。

3. 対象：主に甲府市内 中高生 68 名（申込数 中学生 13 人 高校生 53 人）

4. 資源

人的資源 講師 2 人 タスク 9 人 会場 6 人 事務局 3 人

物的資源 記録用ビデオ・カメラ（参加証に同意の署名）

ラッシュンペン、資料ケース、ノート、ボールペン、名札、付箋、
プロジェクター、ホワイトボード 2 枚

資料：日本学校保健会医薬品教育冊子（くすりの正しい使い方 中学生版）、
厚生労働省薬害資料（薬害って何だろう）

5. 展開

指導事項	学習内容・活動	指導・支援上の留意点
1. 薬の正しい使い方 15分	講義	薬の正しい使い方、リスクについて知る。
2. 代表的な薬害、歴史について知る 45分	<p>① 講義 (15分) 付箋を使い、講義の中で考えたことを各自書き出しておく。</p> <p>② SGD (20分) ・司会、発表、記録係を決める。 ・テーブルの上で、自分が書いた付箋を貼りながら討議する。 ・だんだん島ができてくる。 ・島に名前を付ける ・関連⇒をつけておく。 ・共通点について討議し、意見をまとめ模造紙に書く。</p> <p>③ チームでの発表と討議(10分) ・各グループの模造紙を持ち、意見をまとめて発表する。 ・共通点についてお互いの考えを知る。 グループで修正・追加をする。</p>	<p>代表的な薬害について確認する。 薬害発生の共通点について考える。 資料の配布はタイミングで行う。 付箋の使い方について説明</p> <p>資料の中の難しいと思われる言葉を資料として用意。 フリーに質問に答える会場スタッフの配置 タスクがしきって、受講者から司会者・発表者、記録係をきめる。 タスクは各Sでも作業の説明をする。 模造紙を配布(半分に折り、あらかじめ グループ名 題などを書いておく) タスクはなるべく意見をだすように促す。 意見が似ているものは、近くに貼る。</p> <p>各Pごと集まる。たったままで。 模造紙はグループの中で持たせる 発表順は、中学生から</p>
3. 薬害被害者の方から直接お話を聴き、被害者の苦しみを感じ、どのように被害者の方が考えているかを知る。 40分	<p>① 薬害被害者の話を伺う ・話を聞いて、各自考えをまとめる。(メモ用意) ・模造紙、付箋などから聞いてみたいことをまとめる。</p> <p>② 薬害被害者と対話する。 ・薬害被害者に聞いてみる。</p>	<p>被害者は、どのようなことに苦しんできたのか知る。 被害者は薬害をどのように考えているのか考える。 椅子は正面向きましょう。 ・この時間、付箋を書いてもいいが、この後はプロダクトには使いませんが、覚書ではOK</p> <p>*質問がでないとき ・こちらから指名する ・あらかじめタスクがメモの内容を見ておき、促す。 ・各グループから1問でもよい</p>

<p>4. なぜ薬害は起こったのか、薬害によりできた制度について知る</p> <p>15分</p>	<p>① 講義</p>	<p>国・製薬会社・医療従事者は何をすべきだったのか考える。 どのような制度ができたのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者にとっては、難しい言葉、内容なので配慮する。 ・講義が終了したころ、制度のA4資料を配布する。
<p>5. 薬害はどうすれば防げるだろう？</p> <p>30分</p>	<p>① SGD</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループを、国、製薬企業、医療者、国民に決める。 ・各色画用紙を配布し、国グループは「国がやるべきこと」を話しあい、色画用紙に記載する。 <p>② チームでの討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードの模造紙に、各グループの色画用紙を貼る。 ・別のチームの色画用紙に追加の意見を記載する。 ・社会で改善できることはあるか討議する。 ・私たちのできること、としてまとめて、模造紙に記載する。 	<p>関係者にはそれぞれどのような役割があるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料はP5の図のみです。 <p>この資料の？は何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P6は配布せず、最初の模造紙、制度の資料を確認する。 ・各グループにもう少し詳しい資料配布（3部） ・このセッションから、患者⇒国民になります。
<p>6. まとめ</p> <p>20分</p>	<p>① 全体でのプロダクト確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別のチームの模造紙の意見を確認する。 ・講師、薬害被害者のコメントを聴く。 ・各自が再度考えをまとめる。 ・模造紙へ意見の追加をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙を並べて貼っているあいだ、少し時間をとる。 ・テーブルから離れて、椅子だけ持って中央側へ座る。 ・ホワイトボードの位置は逆にする。 ・講師、薬害被害者から全体をまとめてコメントをいただく。

6. 評価

- ・終了後のアンケートにより判断する。
- ・グループ討議、チームでの関わり、プロダクトから、薬害についての考えなどを判断する。

7. 報告

- ・厚生労働省、講師、協力していただいた学校関係者、甲府市薬剤師会会員への報告書
- ・日本薬剤師会学術大会、および日本薬剤師会雑誌